

★今週の聖句

「あの方は復活なされて、ここにはおられない」

マルコ16:6

★ねらい

無から新しい命を創り出される神の業だからである復活について、どうやってそれが起こったのか説明することはできない。復活はむしろ、わたしたちの視線を、まだ見え無いけれどもいつの日か完成する神の国へ、つまり未来へと向けさせる。

★説教作成のヒント

見えないところに新しい命が生まれてくる、身近な例を挙げてみる（土の中の球根、卵の殻の中のヒヨコなど）。そして、そのような新しい命に触れる時、わたしたちの心は元気づけられ、失われてしまった過去よりも、まだ見ぬ未来に向かうことができる。主イエスの復活の命の物語に触れる時にも、わたしたちは未来へと向かう力を与えられる。

★豆知識

イースターのシンボルとして、「卵を運んでくるウサギ」がよく知られているが、聖書とは直接の関連は無い。ドイツの科学者ゲオルグ・フランク・フォン・フレンケナウが1682年の著作の中で、ドイツのプロテスタントの地域におけるこの民間伝承について初めて触れている。ヨーロッパ文化の中で、ウサギはその繁殖力の強さから豊穡の象徴として捉えられていたものが、命溢れる春の季節の祝祭であるイースターと結びついたものと思われる。

★説教

みなさん、イースターおめでとうございます。イースターは、イエス様が甦られたことをお祝いする日です。今日の聖書のお話しでは、イエス様のお墓が空っぽだったことが書かれています。なぜ空っぽだったことをお祝いするのでしょうか？聖書には、金曜日の午後、十字架で死んだイエス様を、夜になる前に大急ぎでお墓に納めてたと、書かれています。お墓は横に穴を掘ったもので、中にイエス様のなきがらを納めた後、大きな石でふたをしてありました。

安息日が終わって夜が明けた日曜日の朝早く、イエス様の弟子の女の人二人がイエス様の体をきれいにしようと思ってお墓に向かいました。お墓に向かいながら二人はきっと、イエス様が亡くなってしまって、もう会えなくなってしまったことを悲しんでばかりいたことでしょう。

ところが、お墓についた二人はとても驚きました。大きな石が転がされて、お墓の中にはイエス様はいなかったからです。お墓の中にはただ、白い服を着た見たこともない人がいて、こう言うのでした。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なされて、ここにはおられない。」一体イエス様はどこへ行ってしまったのでしょうか？

イエス様は神さまから新しい命を与えられて、甦られたのでした。だから空っぽのお墓は、何にも無い、がっかりするようなことではありませんでした。それは、そこから新しい命が始まったことを示すものでした。

わたしたちは、大事なものを失ったり、深く傷ついたり、とても悲しいことがあったりする時、自分が空っぽになってしまったと思うことがあります。でも、神さまはその空っぽのわたしたちの中に新しい命を与えてくださるのです。だから、イエス様の復活をお祝いするイースターは、わたしたち一人一人にも神さまが新しい命を与えてくださることを喜び、その喜びをみんなで感謝して伝え合う時でもあります。みんなで、イエス様の復活の喜びを、そしてわたしたちに新しい命が与えられたことをお祝いしましょう。

★分級への展開

○さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

113番 改訂版91番

○はなしてみよう

ロールプレイングゲームなどの「復活の呪文」は元通りになるものだが、そういう「復活」と、「新しい命」との違いは何かを話し合ってみる。

○やってみよう

- 1) たまごさがしをする。
- 2) キャンディ探しをする。→卵の代わりにイースターカードとキャンディなど小さなお菓子をいれた袋を探す。
- 3) イースターカードを自分で描き、好きな人にあげる。

★今週の聖句

「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」

マルコ16:15

★ねらい

喜びのメッセージを世界の人々と分かち合うことは、復活された主イエスからの命令である。主イエスを墓から起こされた全能の神は、わたしたちの間にも働いて、悲しみしか見いだせない所にも良い知らせ=福音を与えられる。

★説教作成のヒント

マルコ福音書のはじまりでは、福音を伝えるのは主イエスの働きとして福音=良い知らせを伝えることは今や、主イエスだけの働きではなく、わたしたち一人一人に託された。

★豆知識

福音と言う語は、ギリシア語「エウ」（=良い）＋「アンゲリオン」（=知らせ）＝「良い知らせ」・「朗報」という意味。「福音」という訳語は漢訳聖書を参考にしたとされている。

★説教

今日の聖書のお話しでは、復活されたイエス様が弟子達のところに現れたことが書かれています。イエス様が死んでしまっ、悲しみにうちひしがれていた弟子達は、イエス様のお墓は空だったことを聞いても、信じる事ができませんでした。きっと弟子達は、悲しみに心がふさがれていて、誰の言うことも信じられなくなって、とても暗い気持ちで部屋の中に隠れていたのかもしれませんが。みんなで食事をしていても、お互いの事も信じられなくなって、心はバラバラになっていたのではないのでしょうか。

そんな弟子達のところに、復活されたイエス様が現れます。そして、「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」と命じられたのでした。それはイエス様が弟子達に伝えた最後の言葉でした。そして、このイエス様の言葉を聞いた弟子達は、部屋を出て、全世界に出かけてゆくことになるのでした。

「福音」というのは、「良い知らせ」という意味です。良い知らせとは何でしょうか？それは、イエス様は私たちと一緒にいてくれる、私たちが、悲しみに心が潰れてしまう時も、誰かを信じられなくなる時も、イエスは一緒にいてくださって、私たちを力づけてくださるということでした。弟子達は、その良い知らせを伝えるように、イエス様から命じられました。誰よりも早く、まず始めにその言葉を聞いた弟子達自身が、イエス様がいつも一緒にいてくださることに励まされ、力づけられ、暗い心から解き放たれ、全世界へ出かけてゆくことができたのでした。

マルコによる福音書の1章では、イエス様は「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」といって、「福音」つまり「良い知らせ」をこの世界に伝え始められました。福音を伝えるのは、最初はイエス様ご自身の働きでした。けれども、今度は、弟子達が福音を伝えることになったのでした。弟子達が伝えた言葉は、わたしたちに届いてます。わたしたちが、イエス様の「良い知らせ」を伝える時、イエス様はわたしたちと一緒にいてくださいます。

★分級への展開

○さんびしよう *讚美歌は” こだもさんびか” (日キ版) より

115 B 番 改訂版 88 番

○話してみよう

わたしたちが、この世界で、あるいは身近な友達に伝えられる「良い知らせ」は何かを話し合ってみる。

○やってみよう

☆イエスさまがよみがえられた！・・・カードづくり

色画用紙を何色か用意して 1/4 くらいの大きさに切り、半分に折っておきます。

用意した型紙（★雲に乗ったイエスさま、十字架）を使って輪郭をとり、はさみでカットします（まちがってバラバラになるのも学びです。広告などで試してから画用紙を使うのも一案。）広げて白い画用紙に貼ります。

「イエスさまはよみがえりました」またはこの日の聖句「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」を書きます。

★今週の聖句

「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ」

ヨハネ21：6

★ねらい

わたしたちは時として、自分自身の計画がうまく進まないことにいらだったり、失望したりする。そして、その原因を探して互いを傷つけあうことがある。けれども実は、主イエスの言葉こそがわたしたちを導く力であり、主イエスの言葉に従う時、わたしたちは互いを支え合うことが出来る。

★説教作成のヒント

漁に出かけた弟子達は、岸に立っていた人物が主イエスであるとは、最初はわからなかった。むしろ、その言葉に従った後で、それが主イエスであることが分かった。主イエスの言葉が、弟子達を変えてゆく力になっていることに注目する。

★豆知識

11節で網に入っていた魚が「153匹」であったことの解釈については、古来より様々な解釈がなされてきた。例えば、ゲマトリア（ヘブライ語アルファベットを数字に置き換える暗号）説や、153は17までの自然数の総和であり10と7とで完全さを意味しているとする説などがある。その他によく知られている説としては、ヒエロニムスがエゼキエル書47:1-12の注解に際してヨハネ21:11に関連して触れている「魚は全153種類」という解釈で、全種類の魚が入った網は地上の全ての民からなる教会を象徴すると理解される。ただしこの場合、「大きな」魚であったことは説明できない。結局のところ、教父たちの解釈を超えるものは今のところ出ていない。

★説教

今日の聖書の箇所では、弟子達が復活されたイエス様ともう一度別のところで出会ったお話しが書かれています。「出会った」と言いましたが、本当は少し違います。なぜならば、最初に会った時には、弟子達はそれが誰なのかわからなかったからです。

弟子達は、昔住んでいた湖畔に戻っていました。その中の一人、ペトロさんは昔のように漁に出かけよう！と言ってみんなを連れて行きます。一晩中魚を捕ろうとしましたが何もとれませんでした。元々は漁師だった弟子達は、本当ならば魚を捕ること何て簡単にできるはずでした。それなのに一晩中かかっているいろいろ試しても何にもとれません。きっと弟子達はお互いに、「お前のやり方が悪い」とか「いや、お前のやり方が間違っている」とか言い争っていたのではないのでしょうか。

夜が明けた頃、復活されたイエス様が岸に立っていましたが、弟子達はそれが誰だか分かりませんでした。でもその人が言うとおりに、網を打ってみると、なんと網いっぱい魚を捕ることが出来たのでした。もともと漁師だった弟子達が一晩中がんばっても何もとることができなかったのに、その人の言葉に従った時、たくさんの収穫を得ることができたのです。それだけではなく、その人の言葉が、自分達の間を無くして、力を合わせる事が出来るようにしてくれたことを、弟子達は気付いたでしょう。その時、弟子達は「あれは復活されたイエス様だ」ということに気付いたのでした。復活されたイエス様の言葉が、弟子達が一つになって力を合わせさせたのでした。

わたしたちも、どんなにがんばっても思い通りにならない、期待していたとおりにならないことがあります。そんな時、わたしたちは誰かを憎んだり、傷つけあったりすることがあります。けれどもイエス様の言葉は、そんなわたしたちを力づけ、もう一度結び合わせてくれるのです。そして、わたしたちが気付かない時も、イエス様はわたしたちのそばで、わたしたちを力づける言葉を与えて下さっているのです。

★分級への展開

○さんびしよう *讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

90番 改訂版126番

○話してみよう

福音書の中のイエス様の言葉を探してみる。その中で、自分の好きな言葉、心に響く言葉をお互いに紹介し合ってみる。

○やってみよう

私たちみんなが魚！紙でそれぞれの子どもが魚をつくります。色をつけ、魚に自分の名前、家族や友だち、教会の人の名前などを書きます。シート、風呂敷のような大きな布を網に見立てて、その上に魚を並べます。布の四隅をまとめて一つに持ち、神さまが私たちすべてを一人ももれなく救ってくださる恵みをおぼえて感謝の祈りをささげます。

または魚に国の名前を書くのもよいでしょう。どの国のどんなひと神さまは救ってくださるのです！

漁師さんになって劇遊びをするのも楽しいと思います。

★今週の聖句

「私に従いなさい」

ヨハネ21：19

★ねらい

主イエスを愛するという事は、「わたしの羊を飼いなさい」という主イエスの言葉に従うことである。自らの身を守る術を持たない「羊」を飼うということは、この世界において弱く、小さくされている者を守り、共に生きることでもある。主イエスへの愛は、弱く、小さくされた者と共に生きる時にこそ、この世界の中で実現していく。

★説教作成のヒント

復活された主イエスによってペトロは「わたしの羊を飼いなさい」「わたしに従いなさい」と命じられる。主イエスがシモン・ペトロに3度「私を愛しているか」と尋ねるのは、十字架に際してペトロが3度に渡って主イエスとの関係を否定したことに対応している。復活された主イエスの言葉は、ペトロに新しい命へと向かわせる。それは、自分のことだけを考える者としてではなく、助けを必要とする他者へと関わる者へと変えてゆく力となる。

★豆知識

シモン・ペトロのその後の活躍については使徒言行録に描かれているが、その最期については聖書では触れられていない。13世紀末ジェノヴァの大司教となったヤコブス・デ・ウォラギネが著したキリスト教聖人伝説集「黄金伝説」によれば、シモン・ペトロは皇帝ネロの時代にローマで25年間宣教を続け、ローマ司教を務め、その後ネロの怒りを買って投獄されるが、信徒の手引きによって脱獄、心ならずもローマを離れようとする。しかし市門のところでキリストが歩んでこられるのを見て「主よ、どこへおいでになるのですか（ドミネ、クオ・ヴァディス）？」と尋ねたところ、「ローマに行って、もう一度十字架にあがるのです」という答えを聞く。ペトロは「それでは、わたしも、帰ってあなたとごいっしょに十字架にかけられます」と応え、市中に引き返し、十字架刑となった。しかし自分は主と同じ格好で十字架にかかる価値はないと主張し、頭を下にした逆さ十字架にかけられた、とされている。

★説教

今日の聖書では、復活されたイエス様と出会った弟子達が一緒に食事をしていました。するとイエス様はペトロさんに「あなたはわたしを愛しているか」と3回も尋ねて、その度にペトロさんは「はい、愛します」と応えなければなりません。実は、ペトロさんはイエス様が捕まった時、心配でその後についていったのですが、誰からか「この人はあのイエスという人の仲間だ」と言われたとき、怖くなって、「いえいえ、違います。あんな人のことなんか知りません」と3回も言って逃げ出してしまうのでした。復活されたイエス様は3回「あなたはわたしを愛しているか」と尋ねることで、ペトロさんがもうイエス様のもとから離れることがないように、その度に「わたしの羊を飼いなさい」と命じられるのでした。

「わたしの羊」というのは何のことでしょうか。羊は大昔に家畜になってしまったので、自分の身を守るための武器がありません。だから、飼い主にただついていくしかないので。イエス様が「わたしの羊」というのは、自分の身を守ることも出来ず、生きるためにはただイエス様についていくしかない、弱い、困っている人たちのことを指していたのでした。そしてイエス様はペトロさんに、そういう弱い、困っている人たちのために働くことを命じたのでした。それは、それはイエス様の愛をたくさんの人たちに伝える役割でした。イエス様の「わたしの羊を飼いなさい」という言葉を聞いていううちに、ペトロさんは弱く困っている人たちを助けて、イエス様の愛を伝える人へと変えられてゆきます。イエス様

は最後にペトロさんにこう命じます。「わたしに従いなさい」。イエス様に従うペトロさんと、イエス様の愛はいつも一緒であって、ペトロさんを動かして、イエス様の愛を伝え行くことになりました。

ペトロさんによって伝えられたイエス様の愛は、今、私たちも伝えられています。そして今度は、わたしたちが、イエス様に従ってイエス様の愛を伝える時、イエス様の愛はわたしたちといつも一緒なのです。

★分級への展開

○さんびしよう *讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□67番 □改訂版53番

○話してみよう

イエス様が命じられる「わたしの羊を飼いなさい」というのは、自分達にとってはどんなことが考えられるかを話し合ってみる。

○やってみよう

☆み言葉こいのぼりを飛ばそう

<用意するもの>大きめの封筒、はさみ、ストロー、マジック（色鉛筆）

①封筒の開いてる部分をこいのぼりの尾の形に切る。

②こいのぼりの目やひれの模様をつける。

③みことば「わたしの羊を飼いなさい。」

④尾っぽにストローを差し込み吹いて飛ばす。

